



東京五輪聖火リレー(東温市牛淵)

聖火ランナーは、松山市を拠点に活躍する尺八奏者で、尺八工房「慈庵」代表の大萩康喜さん

※ご本人の許可をいただいて掲載しております

着任のごあいさつ

令和3年4月より看護部長を拝命しました松下愛子です。出身は香川県ですが、徳島、高知を巡り愛媛の地に着任し、四国4県めの転勤となりました。趣味はキャンプをすることです。愛犬とともにキャンピングカーでの旅を楽しんでいます。今はなかなか行くことはできませんが、「愛媛のキャンプ地を旅したい」と夢ばかりが膨らんでいます。

着任のご挨拶に原点回帰、私が国立病院機構に就職したきっかけをお話したいと思います。就職を勧めたのは祖父でした。当時、税務署に勤務していた祖父は、就職先に悩んでいた私に「国立は国の医療機関だからいろいろなことが学べるぞ」と教えてくれました。

就職して2年を経たときに結核病棟への配置換えとなりました。入院患者さんは、長期間外国航路で働いていた方や遠方での出稼ぎ時に感染した方、学校の教師と生徒、アジア系の労働者など背景は多様でしたが、今のCOVID-19に近いものがありました。またある日、

若い褥婦が結核となり我が子と窓越しの面会をしていました。まだ感染が恐れられていた当時は、2歳以下の子どもとの接触は絶対禁止でした。泣いている母親を見て「もっと方法があるのではないか」と生意気にも直談判しましたが、医師の許可はできませんでした。無力な私にはそれ以上何もできなかったことを記憶しています。

人類がCOVID-19と共存するのは集団免疫を獲得するまで困難だと言われています。「何もできない」ではなく「何ができるのか」を愛媛医療センターの一員として微力ではありますが尽力したいと考えています。

看護部長 松下 愛子



愛媛医療センターの未来像



今後の病院運営の方針について紙面を通じてお知らせします。

①外来・管理棟の改修、新築

平成25年の病棟（現本館）の新築およびその後のサービス棟の建て替えは終わりましたが、外来・管理棟は築40年以上を経過しています。まずは改修からになると思いますが、近い将来、外来・管理棟を病棟に隣接するような形での新築を目指します。

②IT化の更なる充実

今年3月、電子カルテに移行しました。今後は電話再診システムの構築やWi-Fiなどの入院環境整備を進めていきたいと思っています。

③地域の実情に対応した医療体制の充実

8日に一度の救急輪番医療機関としての役割を維持します。より高齢化する社会に対応した医療の提供を行い、心臓リハビリテーションをはじめとするリハビリの充実を図っていきます。

④政策医療の継続・維持

重症心身障害、神経難病、結核に関する国が担うべき政策医療に引き続き貢献していきます。

⑤地域との連携

愛媛大学病院や四国がんセンターと機能分担を図り、患者さんに適切な医療を提供します。また、東温市医師会をはじめとする近隣医療機関との連携をより強化し、地域で患者さんを支えていく体制を構築していきます。

⑥臨床研究、治験の推進

国立病院機構病院の大きな使命として、臨床研究や治験への積極的な参加があります。より国民の役に立つ情報発信の役割を果たしていきたいと考えています。

⑦職員満足度の向上

職員の働き方改革のためのシステム作りを進めていきます。

これらの目標を達成するためには私たち病院スタッフの努力と地域の皆様のご協力が不可欠です。何卒よろしくお願い申し上げます。

にゅう ふえいす どくた〜 循環器内科 堀江里佳子

今年4月から循環器内科に勤務することになりました、堀江里佳子です。鬼北町(旧広見町)出身で、愛媛大学医学部を卒業しました。医学生の間から循環器内科に興味があり、松山赤十字病院で2年間の研修医を経て循環器内科医になりました。以後は愛媛大学医学部附属病院で臨床経験を積み現在に至っております。

私事ですが、昨年長男が産まれました。SNSでは育児の大変さを目にする機会も多く、不安な気持ちも抱きつつの育児となりましたが、保育園のみなさんはもちろんのこと、職場のみなさんにも御配慮いただき、順調にここまで仕事を続けることができました。息子はあっという間に1歳になり、最近は一人で立てるようになって今にも歩き

出しそうな勢いです。あちこちに手を伸ばしていたずらのバリエーションも豊かになってきていますが、なんとか無事に大きくなってくればと思っています。

当院に来てからは心疾患のみならず一般内科疾患を診ることも多くなりました。また、救急輪番病院での勤務経験はありますが、コロナ禍では以前と比較できないほど診療業務が複雑化していることも感じています。循環器内科領域はもちろんのこと、内科医として幅広い領域も学び、更に見識を深めていきたいと考えています。これからどうぞよろしくお願い致します。



'21・3・12

当院でも 医療従事者優先接種開始

当院での新型コロナワクチン接種は3月上旬から準備を始めました。接種会場が密とならないよう1日の接種人数を限定し、1時間に30名程度のワクチン接種を行う計画をたてました。また、ワクチン接種後の副反応観察場所の椅子の間隔や各ブース(受付、問診、接種)の配置等についても密を避ける感染対策を行いました。

初日の接種会場の状況は、新型コロナウイルスのワクチンを初めて接種するため、被接種・接種



当院最初の接種者 岩田院長(接種当時)

側の両職員とも緊張した面持ちで始まりました。皮下注射を受けた経験はあっても筋肉注射を受けた経験がない職員がほとんどで「筋肉注射は痛いですか。」などと接種前に不安の声も聞かれました。しかし、ワクチンの1回接種量が少ないためか「思ったよりも痛くなかった」「一瞬だった」という声が聞かれました。3週間後のワクチン接種2回目のときは、被接種・接種側の両職員とも緊張感はなく、落ち着いた雰囲気でした。ワクチン接種後はそれぞれ15〜30分の経過観察を行い、2回の接種を終えた職員は安心した表情で退室していました。

3月中旬〜5月にかけて予定していた500名程度の職員・看護学生のワクチン接種は無事終了しました。

感染管理認定看護師 伊賀上 尚子



接種前の問診

地域の輪

繋がる地域医療連携



退院後訪問に行ってきました

退院時の訪問指導には、「退院前訪問」と「退院後訪問」があります。「退院前訪問」は、退院後の生活環境の確認を行って入院中にすべきことを洗い出して支援をしていきます。そして、「退院後訪問」は、退院してからの実際の生活状況を確認し、自宅で治療や療養を継続できるよう支援します。

過日、病棟看護師と一緒に退院した患者さんの自宅へ訪問させていただきました。患者さんは入院中の思いや自宅に帰ってから行っている行動が大丈夫なのかと不安を伝え、病棟看護師は入院中の様子をふまえ自宅での生活現状を具体的に評価していました。また、患者さんが「家に帰りたかった」という言葉とともに涙を流されたときには、1か月未満の入院は患者さんにとっては不安でつらい日々であったことがうかがえました。

病棟看護師は患者との出来事を振り返りながら、入院生活へのねぎらいとともに自宅療養の現状を支持し、家族の支援に対しても言葉をかけていきました。それらの対応を見ると、病棟での関わりで患者さんの持っているいろいろな側面を理解しようとしながら看護してきた様子がうかがえ、と

ても頼もしく思いました。

今回実際に訪問することで、退院した患者さんやご家族が何に困っているか具体的に知ることができ、在宅をイメージしながらの支援を知る大事な経験ができました。

現在、コロナ禍でさまざまな自粛があり当院でも面会や外泊が制限され、訪問もなかなかできる状況ではありませんが、自粛生活で不安が募っている患者さんやご家族の不安を取り除けるような支援ができるよう経験を活かしたいと考えています。

地域医療連携係長
久保 好枝



医心伝心

PCR検査のおはなし

新型コロナウイルスで有名になったPCR検査ですが、PCR法を簡単に言いますと、温度を上げたり下げたりすることで目的のDNAを増幅することができます。これを25～40サイクル繰り返して目的のDNAが増幅されたかどうかを判断する検査方法です。

当院では結核菌の同定にPCR検査を以前より行ってきました。PCR法はDNAを用いるのですが、殆どのウイルスはRNA型で1本鎖構造なのでそのままでは増幅できません。そこでRT-PCR法を用いてRNAを一度2本鎖のDNAにしてから増幅を行います。同定するための鍵となるプローブは他のウイルスと一致しない18～30程の塩基配列を用いることにより特異的に同定することができます。

10数年前からリアルタイムPCR法と言われる

手法が一般的になり、これはDNAを増幅しながら同時に量を測定できますので、正確に短時間での測定が可能になりました。

PCR法は一般的な検査と違い、存在する物を測るのではなく、増幅することにより極微量でも正確に測定できる方法です。検査に当たり細心の注意も必要で、検査室でも特に汚染には気を付けて検査を実施しています。またRNAウイルスでのRNA転写では、DNA転写の場合のようなエラーチェック機構が働かないので、突然変異（コピーミス）を起こしやすいので、メーカーからの最新の遺伝子情報に注意して検査のすり抜けの無いように情報収集に努め、皆さんに安心して受診していただけるように努力しています。

臨床検査技師長 筒井 修



中四国初！ トモシンセシス搭載 デジタルX線透視撮影装置導入

X線TV装置は、皆さんが健康診断などでバリウムを飲む胃の検査や内視鏡を用いる大腸の検査で使用されています。この装置はX線を利用して体の中をリアルタイムで動画のように観察できます。

当院では主に骨折や脱臼の整復などの整形領域、大腸ファイバーや消化管造影などの消化器領域、チューブ造影や腸重積整復などの外科領域をX線透視室で検査と治療を行っています。

今回導入した富士フイルムヘルスケア『CURE-VISTA Open』は、整形外科領域に有用な画像診断技術『トモシンセシス』・『HyperVIEW（長尺撮影機能）』を搭載しています。トモシンセシスは撮像系の角度を変えながら連続撮影し、画像処理を行い、限定される範囲の冠状面の断層像を作成する機能です。トモシンセシスは骨を金属で固定している患者さんに対し、特殊な画像処理を用いて、より鮮明な断層画像が提供でき、高精細画像で微細な骨折線や骨梁などを明瞭に観察ができるようになりました。

HyperVIEWは、全脊椎（後頭部～臀部）や下肢（股関節～足先）などの広範囲の撮影を行います。人工膝関節置換術では、股関節から足関節までの撮影ができるので、手術前後の計測が容易に行え

ます。また、脊椎側彎症では頸椎から腰椎まで安定した濃度で描出できるため、アライメント（骨・関節の配列や形）の確認も行いやすくなりました。

安全面でも寝台（検査台）が完全固定式で、患者さんを動かすことなく検査が行えるようになりました。寝台の高さも膝下まで下げることができ、車椅子やストレッチャーからの乗せ替えが容易に行えるため、患者さんの負担が軽減されます。

今後も、私たちスタッフ一同は今回導入したX線TV装置の特徴を生かし、よりよい医療に向けて研修研鑽を行い、患者さんの安心と満足の向上に努めたいと考えています。

副診療放射線技師長 山本 邦彦



CUREVISTA Open
モニター部(左)本体(奥)と寝台(中央)、手前は操作部

医療安全 管理だより こんなことしています

選手の交代をお知らせします

4月1日より医療安全管理係長を命じられました、高岡佐奈美です。

これまで病棟看護師長として、自

分の病棟の患者さんと職員にとっての安全管理に留意していましたが、この度一気に視野が広がりました。考えないといけないことは愛媛医療センターにかかる全ての患者さんと、患者さんのケアを行う全ての職員のこと、そして病院のこと…その覚悟を持つことに戸惑う暇もなく、皆さんに助けをもらいながら慣れない業務を日々行っています。

患者さんへ治療・ケアを行う際に、「足元がふらつく患者さんのベッドからトイレまでの距離がある」「同僚の確認間違いを見つけられた」など患者さんに影響が及ぶ前の段階の気づきの報告（ヒヤリハットOレベルの報告）を推奨しています。1

日に多い時は10件以上ある報告書の中にはケアの難しさや環境整備の不十分さなど、個人で解決できそうにないものもあります。職員が無理と感じているこ

とは患者さんにとっても無理が生じているということに心を留め、患者さんにとって、職員にとって何が一番安全で、安心であるかをそれぞれの職場の方たちと一緒に考えています。

まだ勉強中です。起こっている事象の問題がどこにあるか焦点をあて、どんな対策を講じるか、またそのことが継続できているかについて、病院の中の多職種の方々の知識や技術に頼りながら、取り組んでいきます。早く旗がふれるようにしたいと思います。それまでどうかよろしくお願いいたします。



また逢う日まで… 窓越しの面会

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、面会が制限されている状況はどの病院、高齢者施設も同じかもしれません。そのような中で、私が重症心身障害児(者)病棟で経験したことを紹介させていただきます。

私は、昨年まで重症心身障害児(者)病棟の看護師長をしていました。入院患者さんは長期療養のため家族と離れ、病院で過ごされています。中には小児期から療養されている方もおり、その生涯を病院で過ごすため、療養生活の中に人生がある方も少なくありません。療養生活をいかに日々潤いのあるものにしていけるか、スタッフとともに取り組んでいました。このような中、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、感染予防のため面会が禁止となりました。

面会禁止が長期化する中「入口からガラス越しでも良いので顔が見たい」そのような声をご家族から聞かれるようになりました。スタッフからも「患者さんが寂しい様子です。何かできることはないでしょうか」と意見が出始め、主治医の許可を得てガラス越しの面会が開始となりました。ご家族が会

いに来られると、スタッフは患者さんをつなぐ医療機器とともに車椅子へ移乗し病棟入口までお連れします。患者さんの中にはご家族へ手を伸ばす方もおられ、それは言葉にならない思いを伝えているかのようで、ご家族は涙をこらえ声を掛けていました。

コロナ禍も長期化となり、面会にモバイル端末の導入が決まりました。ご家族には来院の際、普段の患者さんの様子が画面から伝わるようになります。ガラス越しでは聞きづらかった「家族の声」が患者さんに届きます。感染防止対策の中でもできることを、ご家族の想いや患者さんの気持ちをくみとり模索する大切さをスタッフとともに学ばせていただく機会となりました。コロナ禍が明け、以前のようにご家族とのふれあいが持てる日が来るまで、患者さんにご家族の懸け橋となるよう取り組んでいきたいと思います。

教育担当看護師長 亀岡 福江

何を
話そうかなあ



四季燦餐 ～えだまめの巻～

日ごとに暑さが感じられる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。Withコロナの生活も長くなってきましたが、体調を崩されてはいませんか。

今回は、栄養価も高くおつまみとしても人気の「枝豆」についてのお話です。

「枝豆」は、大豆が成熟する前の青い間に収穫したもので、完熟すると大豆になりますので、「大豆アレルギー」の方は、ご注意ください。また、日本では、古くは平安時代から食されていたとも言われており、長く親しまれてきた食材の一つに挙げられます。

「枝豆」は、体内で合成することのできない「必須アミノ酸」をバランスよく含んでおり、抗酸化作用や免疫力を高める効果のあるビタミンA、ストレスやウイルスに対して抵抗力を高める効果のあるビタミンC、ナトリウムの体内からの排泄を

促進し、血圧を調整する効果のあるカリウムも多く含まれています。

何といても、「塩茹」が定番メニューではありますが、さやの両端を切ってから、3～5分程茹でると、塩味が染み込みやすくなりますので、塩分控えめでも美味しく仕上がります。

他にも生姜をプラスして枝豆ごはんにしたり、ひじきの煮物や白和えにプラスしたり、人参やとうもろこしも入れて、かき揚げにすると色鮮やかなメニューが出来上がります。

肉や魚に比べると低カロリーではありますが、くれぐれも食べ過ぎにはご注意ください!!

塩湯に浸かったら
ビールだぜ!



看護学校の頁 ～学び舎から～

入学式を終えて

4月7日、春の彩を感じられる季節となったこの日に、私達20期生37名は、これから始まる看護学生としての3年間に期待と不安を抱きながら愛媛医療センター附属看護学校に入学しました。入学直後は、学校内のルールや生活に慣れず、さまざまなことを覚えるのに必死で目まぐるしい日々が続きました。しかし、どのようなときにも私達の疑問に答えてくれる先輩方や先生方のおかげで、学校生活にも少しずつではありますが、慣れてきました。

今までの生活では使うことのなかった専門的な単語を授業で使うようになったり、校内実習の準備をグループで進めるようになったりして、改めて、私達は看護師という夢への一歩を踏み出したのだという実感がわきました。

これからの3年間、私達は看護師として必要な知識や技術を学ぶだけでなく、患者さんとのコミュニケー

ション力や地域の方達との交流、そして自分自身の人間性をも、臨地実習やさまざまな行事を通して深めていけるのではないかと思います。大変なことも多く、行き詰まってしまうこともあると思いますが、入学の決意を共にした仲間達と支え合い、実習先でお世話になる方々や先生方のご指導を真摯に受け止めていきたいです。努力を怠らず、将来の自分のために、患者さんのためにより深い学びを追及していきたいと思います。

第20期生 日野 遥佳



ちよつと言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

FREEで何かを書くということ初めて依頼されました。課題やテーマがあるとそれについて考えがまとまってくるのですが、FREEはテーマを見つけないところからのため、何を書いてよいのか悩みます。今回かなり悩んでいます。自分について、趣味、スポーツ、性格、家族のこと、最近あったこと…。さて何にしましょうか。

と、考え、少し前に思ったことにします。

ちよつと前から、四歳の息子がひらがなを読み始めました。車に乗っていると、看板や標識に書かれているひらがなを一文ずつ読んでいきます。もちろん漢字や英語はとばしますので、時々字を飛ばしたクイズを出題されている気分になります(笑)。

そんな息子ですが、消防車が大好きで絵を描いていたので、「読む」とこと一緒にひらがなも書き出しています。(書くだけだと読むより前だったかな…)見よう見真似で書いているので、時々読めませんが、先日は手本のひらがなを基に、「おばあちゃんへかんれきおめでとつ」と上手に書くことができました。

そのような息子とのやりとりが日常化してきている中、ふとクローゼットを開けると、私の習字道具がありました。今でも時々使うので、奥の方には入らず、比較的手前の方にあります。振り返れば幼稚園年中くらいから習字を始めたので、習字道具との付き合いは三十年以上です。隔世遺伝が証明されたかのごとく、祖母ゆずりの左利きであったため、右手で字を書いたり筆を持つ練習のために始めた記憶があります。しかし私の母親曰く「自分から始めたって言ったんよ」とのこと。どうやら記憶に間違いがあったようです(笑)。何はともあれ、字を書くことは嫌いではなく、今でも年賀状の住所宛名は筆で書いています。少し私の話になりましたが、ちよつと息子も私が習字を始めたころの年齢…無理強いはいくらないのですが、一度筆を見せて字を書いてみようかなと思うところです。興味を持ってくれるかな。

次はどのような成長を見せてくれるのか、楽しみにしている親バカな話でした。

ブル



外 来 診 療 担 当 医 表

内科外来直通電話 089-990-1834
外科外来直通電話 089-990-1835

診 療 科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循 環 器 内 科	6診	午前	船 田	船 田	関 谷	岩 田	関 谷
		午後		堀 江	船 田		
	10診	午前					
		午後					
	12診	午前					
		午後					
消 化 器 内 科	9診	午前	古 田	山内	久 保	山内 (糖尿病専門)	久 保
		午後					
	12診	午前			廣 岡	大 藏	
		午後					
呼 吸 器 内 科	10診	午前	阿 部	伊 東	佐 藤	阿 部	伊 東
		午後					
	11診	午前		渡 邊		仙 波	山 本
		午後					
脳 神 経 内 科	12診	午前	尾 原	戸 井		尾 原	戸 井
		午後	大八木				
整 形 外 科	15診	午前	宮 本			宮 本	担当医(初診のみ)
		午後					
	16診	午前	玉 井		玉 井		
		午後					
リハビリテーション科	15診	午前		曾我部	曾我部		
		午後					
外 科	14診	午前					
		午後					
消 化 器 外 科	14診	午前		鈴 木	森 本	渡部(第3週)	
		午後					
呼 吸 器 外 科	14診	午前					湯 汲
		午後				佐野(第4週14時30分~)	
小児科(神経外来)	14診	午前					
		午後	菊 池		桑 原		菊 池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心 臓 外 科 外 来	14診					泉 谷
ペ ー ス メ ー カ ー 外 来	13診				第2・4(午後)	
糖 尿 病 外 来	11診					岡本(月1回)
フ ッ ト ケ ア 外 来	小児面談室				毎 週	
ス キ ン ケ ア 外 来	救外		第1・3(午前)			
ペ イ ン ク リ ニ ッ ク	12診			山内(康)(午前)		
じ ん 肺 外 来	13診					西村(第1・3午前)
ア ス ベ ス ト 外 来	14診		午 後		午 後	
息 切 れ 外 来	11診	渡邊(13時30分~)				
S A S 外 来	11診					渡邊(14時~16時)
頭 痛 外 来	13診				永井(第2・4午前)	
神 経 難 病	13診			橋 本		

※外来受付は8時30分から11時までです。内科は13時から16時までです。(紹介状のない初診の受付は15時までです)

2021年7月1日現在

ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。

※SAS(睡眠時無呼吸症候群)

独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。